

二〇一六年四月二九日

小港の若布干されし防波堤
幹ねじれたる老幹の藤淡し

智恵子
なおこ

二〇一六年四月二八日

百千鳥抱擁したる楠大樹
鋭角に向き変ふ鯉や水温ぬ
わき見して連とはぐれし街薄暑
麦秋の彼方に高層ビルの群
春昼やジャスミン茶でもいかがです

たか子
ぼんこ
よう子
よし女
なおこ

二〇一六年四月二七日

研礫の燃ゆるつつじにひとやすみ
菓子口に新茶をふふむ至福かな
春惜しめとぞ小雨ふる露天風呂
池普請終へたる水に鯉躍如
大牡丹慈しみをるたなごころ

ぼんこ
ともえ
なおこ
ひかり
たか子

二〇一六年四月二六日

大剪定されし大木直立す
春風や壁画の乙女ハープ弾く
厩出しと心通はす牧馬かな
方丈の反り屋根高く桐の花
休み田に竿立ち並べ鯉のぼり
山腹のソーラーパネル春日燦

明日香
菜々
なおこ
三刀
ひかり
ぼんこ

二〇一六年四月二五日

無農薬新茶が人気筋らしき
幼な顔並びし都をどりかな
懸かり藤愛でつつめぐる宮の杜
春愁やごろりとまはす摩尼車
一声の後の沈黙牛蛙
梅雨じめりしたる速達とどきけり
古色はた春塵なれや秘仏厨子

さつき
ともえ
こすもす
なおこ
有香
よし女
菜々

二〇一六年四月二四日

手のひらを開けば泥の小蟹かな
銀輪を連ね駈けゆく春田道
縫れつつ蝶中空へ消えにけり
新茶汲む手もみの労をねぎらひて
新茶摘み天気が勝負村総出

なつき
豆狸
ひかり
さつき
さつき

二〇一六年四月二三日

山上の足湯に憩ふ遍路かな
奈良公園どのみちとるも春の鹿
筍の土乾きをる亭午かな
春愁や糸繰車廻しもし

なおこ
明日香
うつぎ
菜々

毎日句会みの選・二〇一六年五月一日